



発行者 香川自治会広報委員会
印刷所 旬スエカネ印刷

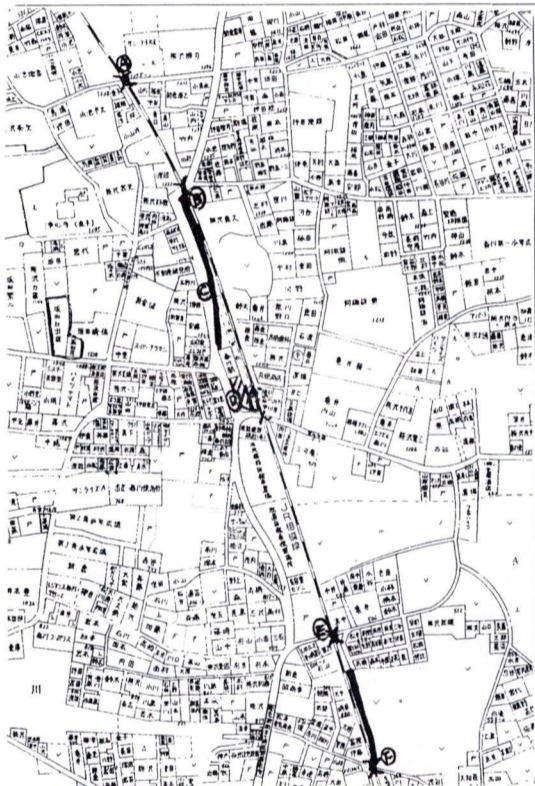
相模線の踏切について J・Rから原案が出された

香川地区内には、相模線の踏切が七つありますが、スピードアップと、安全対策上、踏切間の距離の近い所を二ヶ所閉鎖し、整理統合したいという原案が、J・Rから市に出されました。それは、
(1) 中通り第二踏切を閉鎖(図A) 熊沢勝司さん西側の踏切は、人が通るだけの狭いものであり、中通り第一踏切との距離も近いので、できれば閉鎖したい。
(2) 南河内第一踏切を閉鎖(図F) 松浦電気から曾弥さんに行く所。そうした場合、みかえりとして

(1) 中通り第一踏切(香川駅北側の北陵高校へ行く踏切)を拡幅して駅のトイレ付近から踏切間のJ・R用地に歩道をつける。
(2) 南河内第一踏切から南河内第二踏切(亀井幸夫さん西側の踏切)まで、80mの距離に、2m中の道路を線路に沿ってつける。そして踏切も拡幅する。という案です。
この件について、自治会役員会、評議員会で協議した結果、
(1) どちらの踏切も生活道路、通学道路であり、閉鎖した場合、多くの人が影響をうける。

(2) 踏切閉鎖によって、どれだけのメリットがあるのか。
(3) 南河内第二踏切から西へぬける所も4mにして、信号機をつけてほしい。
(4) 第二・第三町内会だけでなく、住民全体の意見を聞いて関係者と話しあってはどうか。
などの意見がありました。
これについて、自治会としても慎重に協議して対応を考えていますが、十一月十日、市当局から

「この問題については、しばらく凍結したい。」との連絡がありましたので、現状通りで、事態を静観することになりました。
[J・R、用地を一部変更]



私の考え

地球上の一隅、日本国神奈川県茅ヶ崎市北部、地勢上は北緯三十五度十九分、東経百三十九度二十四分に位置するわが街香川。私達夫婦がこの地に住んで三十五年になります。

昭和三十年代初めの香川は、まだ水田や畑、緑も多く、清水の湧く谷戸もある田園色豊かな集落であった。商店は少なく、交通も、電話も、医療施設も不便な湘南の僻地ではあったが、人間の温もりのある地域であった。
こうした香川の「原風景」は一変している。今日の香川は首都圏のベット・タウンの例にもれず、

ミニ開発、乱開発が進み、人口も急増している。三千五百世帯、一万一千人を数える人口は、地方の一つの町に匹敵する規模になっています。
しかし、そこに住む人達の心の触れ合いや地域社会の共同体意識環境の美化、保全といった目に見

品格のあるわが街香川へ小さな関心を

松本明男

えにくい大事な資産は、人口増に比例して確実に失われつつあるといえよう。
住民の多くは居住年限の浅いニューカマーの人達が多く、働き盛りの男性や若者は、長い通勤時間をかけて都市部に出掛け、家には寝に帰るだけの「定時制市民」が

多い。男性族に比べ、地域社会とのかかり合いの多い主婦層にしても、女性の社会進出や多様な趣味、サークル活動もあって、留守が多く、「外様」になっている。
(それが悪いとはいっていません) 昼間人口は老人だけという家も多い。勢い隣人との交わりや地域

果してどうでしょうか。町内のあちこちには生活ゴミや粗大ゴミが、収集日を無視して山積みされている。空缶のポイ捨ても多い。住民の利便のためのゴミ収集場が、ゴミ捨て場と化している。生活雑排水やゴミ投棄で、いこの場ともなる小出川や駒寄川

の維持・手入れに対する自主規制は厳しい。自分達の住んでいる街の品格・原風景・環境保全は、大事な資産として守ろうという考えが徹底している。
彼等と比べ集団主義、共同体意識が強いはずの日本人が、こうした社会公共財の維持、保全に鈍感なのは寒心に耐えない。
「人世の主舞台であるわが家、わが街」を品格のある住み良い街とするため、住民の皆さん、ちょっとり地域社会にも目を向け、ゴミの減量・管理や、清掃、街並みの整備に協力してみませんか。マイタウン香川づくりへ、小さな行動をしてみませんか。そこから新たな人の輪も生まれますよ。

どの程度までできるのか。
(答) 金子薬局の裏の排水路をさらったりして流れをよくする。熊沢賢三さん宅前の道は、道路にマスをつけて、ホープ理容店の所の雨水幹線につなげる。
(2) 道路関係
(1) 東海岸寒川線について、昨年の市民集会の回答で、松風台から県道藤沢寒川線の区間二一四〇mの詳細設計を予定、また用地測量については、香川地区六〇〇mを予定しているとあったが、その後どうなっているのか。香川、下寺尾の区画整理事業との関連は？
(2) 香川の東西を結ぶ幹線道路、香川、甘沼線の全面拡幅(一部分を除く)、特に金子薬局前の交差点を早急に改善していただきたい。香川、大曲線も拡幅願いたい。
(3) 新湘南バイパス下側道を延長して相模線下の街路予定部分を通過する立体交差を一日も早く実現していただきたい。これは変電所前及び大山街道相模線の渋滞解消のためのものである。実施に当たっては、周辺の環境対策を講じることにより環境基準を遵守すること、また立体交差前後の道路の十分な交通安全対策を講じてほしい。
(4) 交通安全関係
(1) 香川駅周辺の駐車が多く、その上、大型車輛の進入も多く危険なので安全対策をお願いしたい。
(答) 住民のマナーの問題だ。
(4) その他
(1) 高齢者・身障者などに神奈中無料パスの支給を考慮してもらいたい。
(答) 横浜・川崎など特別市では実施しているが、不可能だろう。
(2) 小学校の空き教室をPTAや地域のクラブ活動などに開放してもらいたい。管理責任の問題もあると思うが、学校と地域の方との話し合いで解決するのではないか。

香川文化祭開催

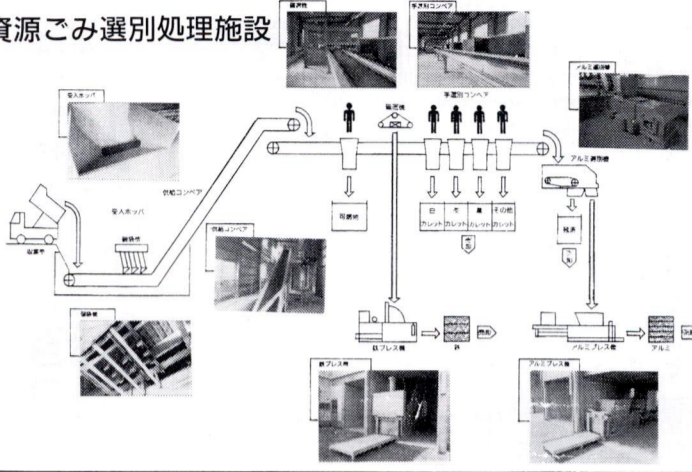
十月三十日、三十一日自治会館において、香川文化祭が開かれた。三十日は生憎の雨でしたが、約百五十名の方が見に来てくださった。華道・書道・俳句・ちぎり絵・鎌倉彫・レザークラフト・編物・陶芸・写真・七宝焼・菊花と、香川の方の趣味の広さがうかがえた。

三十一日は雨もあがり、香川商工会のカッピースタンプ抽選会が行なわれ大盛況でした。皆が楽しみに待っているのがわかりますね。

菊花展の入賞者
 金賞 亀井 家治さん
 銀賞 鶴巻 弥三郎さん
 銅賞 岡本 貞雄さん

資源ごみ選別処理施設を見学

資源ごみ選別処理施設



思われた。破袋機、磁選機を見、手選別コンベアの前。その日は十三人の方が小さなかけらをとり、色別にピンの仕分けをされていた。ゴム手袋・ゴーグル・耳栓をしている方もおり、音、臭いから守っているのでもう。ガラスのかけらでのけりもあるとのこと。手選別されたピンは、色毎に下のガレットにおとされ、それぞれ売却される。ピンの色によって引き取り価格がちがうとのこと。ピン・缶を売却した金額より、委託料の方が高いが、市民のゴミへの関心が、これを支えているのではないだろうか。

十月二十八日、約四十名の参加のもと、衛生委員長の挨拶、係の方の説明で施設を見学しました。選別は業者に委託されているとのことでしたが、ビン・缶が山積みになされたところは臭いが鼻につき、夏はさぞかし大変だろうと、

〔係の方より〕
 資源ごみの収集は、ビンと缶だけと違って下さい。又、洗って出してほしいとのことでした。
 (最低のマナーですね。)
 (衛生委員長談)
 ごみに対する関心が高まってき



菊花展に入賞

を迎え講演会、六日は臨床心理士の川崎孝子氏の講演会とフリートーキングがあり、他に人形劇・映画・ダンスパーティー・手作りおもちゃ、水星の太陽面通過観察会、写真の撮り方講習会、コースス、お茶席・バザー交流会など、盛り沢山な企画だった。

香川公民館まつり

第5回
11月5・6・7日

テーマは「心うきうき」
 私の可能性を求めて

十一月五日と七日まで、天気に恵まれ、公民館まつりが開催された。五日は劇団こまつ座の井上都氏

小学校校庭に自転車を置き、場を作り、当番をお願いして整理をするなど、なるべく近所に迷惑をかけない工夫もしてあり、五回目の公民館まつりでは、地域に浸透した感がありました。



超かんたんおつまみ

かんたんにつくれるおつまみはいかがですか。クリスマス、お正月に一品たしめてみてください。

(めんたい豆腐)

あらく刻んだ明太子をごま油でサツと炒めて青ねぎの小口切りと合わせ、豆腐にかけるだけ。

(さっぱりチキン)

とりさき身は観音開きにし、割りはし位の太さで5cm長さに切り、塩、酒少々をふる。梅干しは果肉を包丁で細かくたき、煮きりみりん小さじ2杯でのばす。とりさき身に片栗粉をまぶして熱湯をくぐらせ、梅肉をかけて召しあがれ。

(ブロッコリーのおかか和え)

ブロッコリーをゆで、花がつおを

ものしりコーナー

勤労感謝の日

新嘗祭について

その年の新穀の初穂を神に供えこれを司祭者みずからも食べる祭儀で、古代から特に天皇親祭の重要な朝廷の儀式とされて、十一月の卯の日に行なわれていた。明治以後には国家的な祝祭日として、十一月二十三日の行事となっていた。現在の勤労感謝の日である。祭儀はいまも皇室で行なわれている。

西の市とは西の祭りの意味である。「とりのいち」という人が多まぶし、酔じょうゆをかけマヨネーズを天盛りにする。

(オイルサーディンのサラダ)
 オイルサーディンとセロリ
 オイルサーディンとトマト
 オイルサーディンとじゃがいも
 なんでも合わせて好みのソースでどうぞ。

西の市

西の市とは西の祭りの意味である。「とりのいち」という人が多まぶし、酔じょうゆをかけマヨネーズを天盛りにする。

お知らせ

自治会館の西側に有料駐車場が設けられました。下水工用の道路あとで、No.1/No.5までが自治会の専用駐車場です。
 駐車料金は300円で、自治会館管理人の山口さんに支払ってください。

計報

- 松井 茂様 23才 9月18日 第三町内会30-1組
 - 渡辺 敏夫様 74才 9月22日 第二町内会51-1組
 - 野村ハツナ様 87才 10月6日 第三町内会30-2組
 - 内田 シゲ様 85才 10月31日 第四町内会3-15組
 - 古宮 正男様 69才 11月13日 第四町内会24-2組
- 謹んで、哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

人形浄瑠璃にも感動した 敬老大会

今年の敬老大会は、九月二十六日(日)に、午前十時から午後二時すぎまで、香川小学校体育館で行われました。

晴天に恵まれ、あたたかな日中に、お年寄りの方たちも多勢集まりにぎやかでした。

自治会長の挨拶の後、「そよかぜ」の方々のコーラスで、「どんぐりころころ」「もみじ」「里の秋」「ふるさと」など、懐かしい歌が流れると、一緒に口ずさむ方もいらっしやいました。

幸香会・洋美会・幸多香会・寿舞踊会の方たちのみごとな踊りが披露され、個人参加の山田栄吾氏の男らしいいきびきびした舞いに会場は拍手喝采。他にも個人参加の方がいらっしやって、はなやかな衣裳やいでたちに目を奪われました。

また若草の方たちのフォークダンスも、赤いスカートの民族衣裳がかわいらしく、会場に色を添えました。

中でも第二部の最初に行われた県立茅ヶ崎高校の皆様の演じられた人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」は、秀逸で、有名な外題だけに、お年寄りの方たちも、内容がよく分っているので、身をのりだし、目を輝かせてみていました。



傾城阿波の鳴門
— 茅ヶ崎高校の乙女文楽 —

特に、巡礼姿となって母を尋ね歩くおつるが、いとしい我が子と知りながら、今名をあげて親子と分ったならば盗人の子供ということでは罪が我が子に及ぶと考えて、心を鬼にして追いつ返す母親のおつる。後をふり返りふり返り巡礼の旅に出る母親の別れの場面は涙を誘わずにはいられませんでした。「かわいそうで泣いてしまっただ。」と、目を拭う方もいらっしやいました。

四十余年間、浄瑠璃の指導一筋に励んでいらっしやった桐竹千恵子師匠、義太夫の平野博八さん。本当にみごとで、みなさん感動し、万雷の拍手がわきました。最後に出演者全員と自治会役員の方や一般の方も加わって、「好きになった人」をみんな踊り、閉会しましたが、特別出演の乙女文楽は、強く印象に残ったことでしょう。

香川地区体育大会 甘沼またも三年連続優勝



オーエスノオーエスノ

第25回香川地区体育大会が、十月十日(日)香川小学校校庭で、多数の老若男女の方や、子ども会の児童達が参加し、にぎやかに行われました。幸い、曇り空と晴れ間が交互して、暑くなく寒くなく絶好の運動会日和の中、ストレッツ体操に始まって、アイデア一杯のレク種目、民謡フォークダンスなど、プログラムが進みました。最終種目の、小学生から50代の方々が走る地区対抗リレーで、会場が最高に盛り上がり、抽選で特賞の自転車を送った方に拍手を送りながら、無事終わることができました。地域の方々の健康増進と親睦を深めるといふ大会の目的は今年も十分達成できたと思います。大会に携わった方々のご尽力に感謝しつゝ散会しました。

①参加者からのご感想
②今回は、子ども会のご協力、リレーの人選もスムーズに進み大へん有りがたかった。
③今年の入場に大人の参加が少なかったのが残念。
④新しいスポーツの紹介はよかったです。
⑤民謡フォークダンスなど、忙しい中練習を重ねて、見事な演技を見せてくださったのに、昼休みのためか、見学者が少ないのが残念だった。
⑥みんなに見える大きなプログラムが欲しい。

諏訪神社の稲刈り

十月二十四日、神社の役員さん方が稲刈りを行いました。冷夏の影響はここ香川でもあるようで、思った程に実がつかない稲を、一生懸命刈り取っていました。これから脱穀、糲すり、精米と手をかけた後、いよいよ勤労感謝の日、餅つき大会に使い、皆様に賞味していただきます。ご期待。



お宮の稲刈り

お八つは四季おりおりの果物 日用品は「三口市」で

今回は、第四町内会にお住居の岡本イトさんからお話を伺いました。喜寿の祝いをされたばかりとか、今もお元気で畑に出られ、健康保持に努めていらっしやるそうです。

岡本イトさん 77才
大正5年10月18日生まれ

一分教場・本校時代
三年生までは、金子薬局隣りにあった分教場で複式学級で勉強した。先生は須藤先生お一人だけ。一年生が勉強していると、二・三年生は自習をしていた。土曜日は半日で、本校へ行く嬉しい日だった。落語など自作自演で、その日によくやったものだった。
三橋大五郎さんが、毎年鉛筆と

ノートをくださったって嬉しかった。四年から本校(松林小)へ通った。一里の道程は結構きつかった。着物・足袋・わら草履の通学だが、足袋は貴重で、継ぎはぎだらけでも履いていた。下駄も貴重品だった。雪の日は、親が道を作ってくれた。当時は、さえぎるものがないせいか、西風が強く吹いた。帰りはまっ暗になり、大原の火葬場の煙がくさくさして走り抜けてきたものだ。



岡本イトさん

その頃は学校も厳しく、忘れ物をすると、とりに帰らなくてはならなかった。木の弁当箱を持ち、分校近くの熊沢伊助さんの所に集まり、誘い合って仲良く通学した。当時は尋常高等小学校へ進む子が三人位、女学校(和裁など)へは二人位しか進まなかった。勉強するよりも百姓をやれという時代で、帰ってくればすぐ田んぼの手伝いに出たものだった。

一楽しかったこと
忘れられないこと
柿・ごころ・みかんなど自家製の果物がお八つで、季節毎に楽しめた。くわの実やさくらんぼもとれ、口をまっ黒にして食べたものだ。運動会には、とれた栗をゆでていった。

近くの家では、お互いに「もらい湯」をした。石けんもない時代で、しまい湯になると、どろんこになり、却って汚れてしまう感じだったが、次々にこたつに入ると話がはずみ、なごやかで楽しかった。「新家」「新宅」「やまく」「あっち」など、それぞれ屋号を呼び合い、みんな仲良く協力していた。

ただ、親は子に厳しく、帰宅すればいや応もなくすぐ畑や田んぼ建つ頃の様子。雑草や茅がおい繋る細い道だったが、市役所の方が日参して頼ま

の手伝い。あかぎれが切れても、米を運んだり、せんばこきをやって。一日用品を求めて
当時は医者もなし電話もなし、自転車もほとんどなかった。肉などは茅ヶ崎まで歩いていったが、相模線が通ると、一番近道なので線路を歩いて行った。人がいると、電車の方が止まってくれる、のどかな情景だった。

新町の通りに三日市がたち、夜だけだったが、買い物に行った。あとは行商人が来てくれた。北陵道路
今年30周年を迎える北陵高校が建つ頃の様子。
雑草や茅がおい繋る細い道だったが、市役所の方が日参して頼ま

いろいろ思い出すと、物はなく食物も悪かったが、近所、親戚、親子、兄弟みんな仲良く、おだやかなよい時代だった。
部落の代表さん方が、身をけずって、みんなのために尽くしてくださって、今の香川が出来たのだと思う。

さーくる紹介

毎週日曜日、午後十時から香川公民館に大集合——が休日の生活の定番になっています。
ビートルズ・ナンバーやJリー

グでお馴染の「オレ・オレ」の軽快な音楽に乗ってリズム体操やフォークダンスに興じ、心地良い汗を流す。

香川NM体操クラブ



クラブの皆さん

私達の「香川NM体操クラブ」は、「体力づくりと心の駆け合いを通じて、地域の人々との交流の輪を広げよう」——を合言葉に一九八五年（昭和六十年）三月に発足し、九年目に入った地域住民の親睦クラブです。

NMという名前は「ナイス・ミドル、ナイス・ミセス」の略称で、香川地区を中心とした紳士、淑女達の集まりでしょうか。メンバーの多くは四十代、五十代の壮年、熟年層。人生八十年の長生き社会の生涯の持ち時間は七十万

時間。会社人間の猛烈サラリーマンでも職場で働くのは一生で八万時間、女性の子育て時間は四万時間と言われている。そして自由時間はほぼ十七万時間と多い。この大事な「時間資源」を「失われた時間」とせず、いかに有効に使い、楽しく、ゆとりある生活をするか——人生設計にとって重要な課題だといえよう。

私達世代の共通の悩みは、運動不足とさまざまなストレス。日常の心もややを吹き飛ばし、心身をリフレッシュするため、いい仲間達といひ汗を流す二時間の集い。発足時十三名だった会員は現在七十名。うち男性は十五名。ご夫婦でのペア参加も十二組。年二〜三回は登山や旅行を催し、わいわいがやがや群れています。年二回（四月・九月）新しい会員を募集します。気楽に見学にお出掛け下さい。指導者は阿部泰子さんです。
代表、松本明男 ☎576136

図書館 だより

——新刊書の紹介——

- ◎ヤブ病院の見分け方
メデイカル・ブレイン編
- ◎失敗しないさし木
とり木・つき木 山下 豊
- ◎わかる指圧肩こり
新村勝資
- ◎健康と運動と食事
鈴木正成
- ◎宮中某重大事件
大野 芳
- ◎身近な野草を鉢植えに
西山伊三郎
- ◎皇太子妃とマスメディア
丸山 昇
- ◎全国名医のいる病院
高樹眞二

池尻に鳥の足跡運は実に花を誇って実になってしまった蓮池の、一部池底の見える処に、餌をあさった鳥の新しい足跡がついているのだろう。しずまった池の一部が鮮やかに画か

れている。 さわやかや水溜りにも昼の月 湯川 章一

山芋を掘るや地の香を浴びにけり とても健康的な句だ。長い山芋の全体が見えてくるまでは大変な作業だが、散り積った木の葉の下から湧いてくる地の香がすがすがしい。

鳩一羽しきりに鳴けり秋の朝 長島 久江

口開けし石榴をゆらす俄雨

栗飯の栗を数えし子等あらず 石田カツ子

俳句 茅花会

平塚司郎選

石榴の割れ目から見える実はまことに美しいが、それを包んでいる殻も陶器のような艶がある。俄雨に濡れて一層艶の出た殻に見とれてはいるのだろう。 晩酌の亡父浮かびくる衣被

風雲沖のこして天高し 冬隣辛みの抜けし漬大根 選者 吟

新幹線刈田の畔に野菊咲く 川名 千代

夜学の子声弾ませる二三人 田辺美津枝

切り干のちりちりちむ竹の中 藤井 謙昌

家財道具は一切焼けてしまった。もちろん父の遺品の硯箱も、思い出多いアルバムも、す

昭和二十五年前橋支社勤務の折、一軒の社宅の風呂場から火が出た。十数軒に類焼し、私の家も丸焼けとなった。私

昭和二十二年三月宇都宮市は米軍の空襲を受け、市街地はほとんど焼野原となったが、私の家は周囲が田圃であったので、不発焼夷弾が屋根を突き抜けて落ちてきたが、火災からは免れた。

昭和二十五年前橋支社勤務の折、一軒の社宅の風呂場から火が出た。十数軒に類焼し、私の家も丸焼けとなった。私

今年一月家内を亡くし、淋しさは残るが、長男夫婦と孫三人に囲まれ、緑多い自然と、情あたたかい人々と付き合せて、快適な毎日を送っている現在である。

今考えて見れば、硯箱のうしろ側にある父の面影に、たえず励まされていたのかもしれない。

私は七十年の思い出を綴った「星は移りて幾春秋」を平成四年五月に出版し、今迄お世話になった方々や、茅ヶ崎・香川の両図書館にも贈呈した。

お前もいつかは世の中の傘になれよと教えてくれた。あなたの実忘れはしない。——

私の宝物 思い出の硯箱

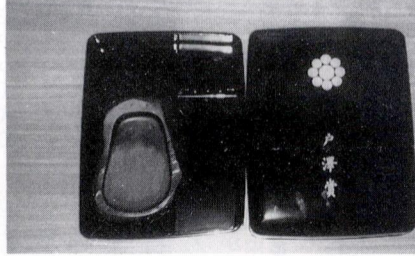
香澤 定男

父の遺品として母から貰った硯箱、これが私の宝物である。父は新庄市で家具職人をしていたが、小学校は首席で卒業した。その折新庄城の藩主であった戸沢子爵の九曜の紋の付いた硯箱を戴いた。母は筆筒の奥にしまっていたあるその硯箱を、大事そうに出してきては、私を前に坐らせて、

「定男、お前のお父さんは学校で勉強に励むことになった。母は無言でその硯箱を私に呉れた。母には万感の思いがあり、言葉に

べて灰となってしまうた有様を見て、涙した。 横浜支社勤務時代に、当時香川の自治会長であった新倉政一さんのご好意により、香川の現在地に新居を構えた。昭和三十四年の暮のことである。仕事から、家のこと、子供のことは常に家内に預けっぱなしで、全国を飛び歩いていた人生であった。

昭和五十八年常務取締役であった日産建設を退任し、関連会社の日昌機械株式会社の社長に就任、漸く心にも余裕ができてきて、前橋で焼失した硯箱の復元を思いついた。いつも頭の隅に思い画いていたので、形や大きさを思い出すにはたいした苦労はなく、会津塗で復元、家宝として保存している。 歌手の森進一が歌う「おふくろさん」の歌に



思い出の硯箱